

神樂坂七不思議

泉鏡花

青空文庫

世よの中なかなに何ごと事もも不思議ふしぎなり、「おい、ちよいと煙草屋たばこやの娘むすめは
 アノ眼色めつきが不思議ふしぎぢやあないか。」と謂いふは別べつに眼めが三ツあ
 るといふ意味いみにあらず、「春狐子しゅんこし、何どうでござす、彼處あそこの會く
 席わいせきは不思議ふしぎに食くせやすぜ。」と謂いふも譽ほめ様やうを捻ひねるのな
 り。人ひとありて、もし「イヤ不思議ふしぎと勝かつね、日に本つほんは不思議ふしぎ
 だよ、何どうも。」と語かたらむか、「此奴こいつが失敬しつげいなことをいふ
 陛下へいかの稜威みいづ、軍士ぐんしの忠勇ちゆうゆう、勝かつなアお前めえあたりまへだ、何なに
 も不思議ふしぎなことあねえ。」とムキになるのは大きおほに野暮やぼ、號が
 外うぐわいを見てみびしやくくと額ひたひたを叩たたき、「不思議ふしぎだ不思議ふしぎだ」
 といったとて勝かつたが不思議ふしぎであてにはならぬといふにはあ

「らず、この道理を噛分けてき、この七不思議を讀み給へや。
 東西、最初お聞に達しまするは、

「しゝ寺のもゝんぢい。」

これ大弓場の爺様なり。人に逢へば顔相をくづし、一
 種特有の聲を發して、「えひゝゝ。」と愛想笑をなす、
 其顔を見ては泣出さぬ嬰兒を——、「あいつあ不思議だよ。」
 とお花主は可愛がる。

次が、

「勸工場の逆戻。」

東京の區到る處にいづれも一二の勸工場あり、皆入口
 と出口を異にす、獨り牛込の勸工場は出口と入口と同一

なり、「だから不思議さ。」と聞いて見れば詰らぬこと。

それから、

「藪蕎麥の青天井。」

下谷團子坂の出店なり。夏は屋根の上に柱を建て、席を敷き

て客を招ず。時々夕立に蕎麥を攫はる、とおまけを謂は

ねば不思議にならず。

「奥行なしの牛肉店。」

(いろは)のことなり、唯見れば大廈鬼然として聳ゆれど

も奥行は少しもなく、座敷は残らず三角形をなす、蓋し幾

かがくてき何學的の不思議ならむ。

「島金の辻行燈。」

家は小路へ引込んで、通りの角に「蒲焼」と書いた行燈ばかりあり。氣の疾い奴がむやみと飛込むと仕立屋なりしぞ不思議なる。

「菓子屋の鹽餡娘。」

餅菓子店の店にツンと濟ましてる婦人なり。生娘の袖誰が曳いてか雉子の聲で、ケンもほろゝの無愛嬌者、其癖甘いから不思議だとさ。

さてどんじりが、

「繪草紙屋の四十島田。」

女主人にてなかくの曲者なり、「小僧や、紅葉さんの御家へ參つて……」などと一面識もない大家の名を聞こえよが

しにひやかしおどかす奴やつ、
氣きが知しれないから不ふ思し議ぎなり。
明治二十八年三月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：米田進

2002年4月24日作成

2003年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫 (<http://www.w.aozora.gr.jp/>) で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

神樂坂七不思議

泉鏡花

2020年 7月13日 初版

奥付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>